

<b>1 学校教育目標</b> 社会の変化に的確に対応するために、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と創意に満ちた生徒を育成する。	<b>2 本年度の重点目標</b> ①特色ある学校づくり(開かれた学校づくりの推進) ②「学力」の育成(確かな学力づくりの推進) ③「心力」の育成(豊かな心づくりの充実) ④「体力」の育成(たくましい心と体づくりの推進)
-----------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度 A:ほぼ達成できた  
 B:概ね達成できた  
 C:やや不十分である  
 D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価									
①									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員 の評価(A～Dで記入)	意見や提言など
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信 ・学校の公開 ・学校評価の実施	・学校教育活動にかかる情報発信に努める。 ・HPの定期的な更新を行う。 ・学校行事や授業参観への保護者の参加率を4割以上に上げる。	・学級だより、保健だより、図書館だより、学年だより、学校だより等を発行して、学校の様々な情報を発信する。 ・学校行事などは早めに案内をし、携帯メールを利用した呼びかけを実施する。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を考慮する。 ・開かれた学校づくり委員会等を開催して情報を公開し、評価の適正化を図る。	B	・授業参観を含めた保護者参加行事への参加率は4割程度で、目標を概ね達成できている。評価アンケートでは「参加しやすい」という回答が86.3%となっており過去3年間のデータと比べると向上している。 ・情報発信については、学校便り、学年便り、学級便りは、定期的に発行したが、ホームページの更新が十分ではなかった。メール配信については有効に活用することができた。 ・地域から情報を得る活動においては、今後積極的な取組が必要である。	・学校行事への参加がしやすい雰囲気づくりをさらに推進し、情報発信の手立としてメール配信を有効に活用する。また、機会あることに保護者の参加が生指導上効果あることを伝え、参加率の向上を目指す。 ・情報発信については更に工夫をしていく。 ・PTA挨拶運動を継続し、保護者参加型の学校づくりを目指す。 ・児童民生委員会や開かれた学校づくり委員会などで積極的に学校情報を公開する。	B	・全学年での保護者面談を継続することで、保護者が学校へ足を運ぶ機会を確保する。 ・日頃から保護者との連携を密にし、しっかりと情報を共有することが大切である。
		・各学校との交流及び連携	・校区内3小学校との交流及び連携 ・西部中学校との交流及び連携	・小・中連携により、地域団体との連携強化を深める。さらに、地域行事への積極的な参加や協力を推進し交流の充実を図る。 ・日曜参観等の同時開催を含め、市内中学校として学校行事や部活動を通しての交流や連携を図る。	B	・校区内3小学校との連携については、児童生徒の活用方向上研究指定事業を受けて2年間取り組んできた。児童生徒の情報共有し、授業づくり部会・学びの集団づくり部会・学びの環境部会の3部会において小中連携を図ることができた。 ・地域行事への参加についても啓発することができた。 ・市内の中学校として、日曜参観を同一日に開催することができた。	・小中連携については、2年間の取組を基盤として継続的に推進し、児童生徒の情報共有できる体制づくりを行う。 ・地域行事への参加については、一部の生徒にとどまらず、幅広く推進する。 ・市内中学校との、連絡を密にし日曜参観等の行事を同一日に開催する		・地域行事への参加は、積極的に啓発してほしい。
②									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員 の評価(A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●学力の向上	・指導方法の改善・充実を図る	・「わかる授業」との生徒の評価を7割以上に上げる。 ・長期休業中における補習学習を計画的に実施し参加者の7割以上に満足させる。 ・2学期からの3年生の放課後学習に指導者をおき、参加者の7割以上に満足させる。	・TTや少人数授業の充実を図る。 ・表現活動や活用力を取り入れた授業の充実を図る。 ・授業研究会を計画的に実施する。 ・各学年で長期休業中や放課後学習の内容を検討し実施する。 ・小中連携で学力向上を研究する。(活用力)	A	・84.1%の生徒が、「授業が分かる」と答えており目標を達成することができた。 ・全学年で実施した夏季休業中の補習学習について、英語共に7割以上の生徒が意欲的に取り組めた。 ・3年生の放課後学習会でも参加者の7割以上が意欲的に取り組めた。 ・全体的に目標を達成することができた。	・活用方向上事業で取組んだ2年間の研究内容を各分科毎に継続させる内容と新規に取組む内容を検討し、学習習慣や学習規律のさらなる充実を図る。 ・授業改善に努め「めあて」「まとめ」「振り返り」の時間を明示すること、小集団による話し合い活動を効果的に位置づけて基礎・基本の定着と活発性の向上に努める。	A	・授業参観をした際、わかりやすく楽しい授業を見ることができた。また、校内研究の中で授業づくりや、補習学習が計画的に行われていると感じた。
		・家庭での学習習慣の確立	・家庭学習時間が1時間以上の生徒が6割を超える。 ・家庭学習の指導助言を行い、宿題提出率を7割以上に上げる。 ・伝えるノートを活用し、望ましい学習習慣と生活リズムを確立させる。	・伝えるノートを保護者と教師が共有し、生徒の生活習慣の確立を図る。さらに、家庭との連携の中で、家庭学習の習慣づけを図る。 ・小中連携で家庭学習習慣についての研究を進める。	B	・74.8%の生徒が「毎日自主学習取り組んでいる」と答えているが、1年生の取組が遅れ、25・26年度の数値には届いていない。 ・家庭学習の時間は、生徒アンケートで1時間以上のものが80.9%で、目標を達成している。 ・宿題についても、全学年で8割程度の提出率がある。	・今年度改定した「家庭学習ガイド」を効果的に活用し、年度当初に全学年を対象とした家庭学習への取り組みに向けたガイダンスを実施する。また、「伝えるノートの取組」を継続し、学級担任と教科担任の連携を強化することで、主体的に家庭学習に取り組む生徒を育成していく。		・アンケート結果から家庭学習に取り組んでいる実態が見て取れるが、学力向上との相関関係はどうなんだろうか。
③									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員 の評価(A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ・道徳意識の高揚 ・ボランティア体験活動を通じた思いやりや心の育 ・安心して学校生活が出来ると思える生徒が9割を超える。	・全学年が、道徳の授業を、保護者に公開する。 ・性教育を充実させ、講演会を実施する。 ・校内外のボランティア活動への参加を促す。 ・学校が楽しいと思える生徒が9割を超える。 ・安心して学校生活が出来ると思える生徒が9割を超える。	・全担任が年に1回は、道徳の時間を公開する。 ・生徒会を中心に校内外で、ボランティア活動を企画し、体験活動や福祉教育の充実を図る。 ・教育相談を実施し、 ・Q-Uテストを活用した学級づくり。 ・差別やいじめを許さない思いやりのある学級づくり、支持的風土のある学級づくり。人権作文や人権集会、標語等の取組を充実させる。 ・毎月、生活アンケートを実施し、生徒の問題の早期発見につなげる。	B	・「私たちの道徳」のより効果的な活用方法について研修を深めていく。道徳の教科化に対応するための研修も取り入れていきたい。 ・Q-Uテストについては、研修を深め分析力を向上させることでより良い集団づくりを図りたい。 ・性教育については、校内研究の一部に位置づけ、関係機関と連携を図りながら、全学年を通じて系統的に推進していく体制づくりを図る。 ・「いじめ防止基本方針」をさらに周知させ、いじめが発生した場合の組織的な対応力を向上させる。 ・生徒指導を充実させ、生活規律や規範意識の向上を図る指導体制を強化する。さらにSNS等の情報モラルや利用による問題点については、講演会等を実施し継続的に指導をしていく。	・子ども同士のトラブルは、保護者間のコミュニケーションで解消されることもある。 ・教師は、問題が発生した時だけでなく、日頃から保護者との連携をとる必要があるのでは、子どもは親を見ており、教師の口を言わないことが大切であると思う。		
④たぐいまれい心と体づくりの推進									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員 の評価(A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成 ・健康な体づくり ・食育指導の充実	・早寝早起きの習慣が出来ると思える生徒が7割を超える。 ・朝食摂取率95%以上とする。 ・家庭で、テレビを見たりゲームをする時間が3時間以上ある生徒を1割以下にする。 ・部活動をがんばっていると答える生徒が9割を超える。	・3年間を通じた健康指導を充実させる。健康観察や生活習慣調査等で、生活の実態を調べ、家庭への啓発を図る。 ・食育強化月間等に合わせ、学校全体で食育指導を実施する。 ・保護者との連携を深め、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・心・技・体の育成・充実を図るため、部活動への取組を推進させる。	B	・早寝早起きに関しては、67.9%と平年並みの数値で、目標達成には至らなかった。夜更かし等で、生活リズムを崩している生徒もいるので、家庭とも連携をして支援していく必要がある。 ・テレビゲーム等に3時間費やす生徒は2割5分程度に減少しているが、SNS等の依存症の予備群を含め今後とも関係機関と連携した継続的な取組が必要である。 ・部活動を頑張っていると答える生徒は96.4%で、人間関係等うまくいかない場面もあるが、それぞれに頑張っている様子が見える。	・SNS等依存症にならないよう、親子での適切な使用についての学習を行うための講演会を実施する。また、家庭への連絡や支援のあり方等について学校からの発信・啓発を工夫していく必要がある。 ・部活動については、年間の指導計画や月別の活動予定を明確にし、生徒の体調管理を考慮しながら実施し、健康被害とならないよう配慮する手立てを構築する。	B	・SNSに対する指導は、保護者と連携をして継続的に指導をしていく必要がある。 ・部活動は学校教育の延長であること保護者に啓発する必要がある。 ・部活動については、年間の指導計画や月別の活動予定を明確にし、生徒の体調管理を考慮しながら実施し、健康被害とならないよう配慮する手立てを構築する。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策	学校関係者評価委員 の評価(A～Dで記入)	意見や提言など
特定課題	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・教職員のICT活用に係るスキルアップの向上を図る。	・全職員がICT機器を活用した効果的な教科指導を行うことができるようにする。	・研修会等積極的に参加する。 ・授業研究でICT機器を取り入れた授業を実施する。(全職員が機器を活用した授業を実践する)	A	・ICT活用学習については、生徒や保護者とも8割以上が分かりやすいと答えており、一定の評価をしていただいている。 ・校内の授業研究会で積極的にICT活用を取り入れ、職員相互の学び合い活用力を高めた。	・教職員のICT活用のスキルアップのための研修会を実施し充実を図る。 ・電子黒板のさらなる活用を全教科で推進するため、校内研究の授業づくり部会における研究授業で活用促進の取り組みを計画し実践する。	A	・授業参観で、電子黒板を活用した授業を見ることができたのでよかった。
	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止に努め、早期発見、早期対応を行う。 ・組織的に対応する職員体制を整える。	・職員がいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、8割以上の評価を目指す。	・毎月、生徒の生活アンケートを実施し、生徒の状況を把握し、予防を含め早期発見につなげる。 ・いじめの定義を再確認し、小さなことでも常に報告・連絡・相談を繰り返し、情報を共有しながら、判断から取組につなげ、生徒に安心、安全の環境を作り上げる。	B	・いじめに対する取り組みについては、保護者の評価が7割を切り、生徒指導を含め十分な信頼を得ているとは言いがたい。 ・職員のアンケートでは対応方法については理解しているとの回答が多く、今年度は、生徒指導を中心に組織的な対応の強化を図った。しかし、加害者、被害者の関係が難しいときなどは、指導に時間がかかったり、説明が不十分で信頼を損ねた部分があった。	・いじめや生徒指導上の問題については、毎月生活アンケートや教育相談アンケートを定期的に実施し、早期発見に努める。対応についても組織的にいじめ、特に、初期対応については、迅速かつ丁寧に行うことを周知させる。 ・信頼回復には時間がかかることを理解し、生徒・保護者への的確な対応を積み上げていくことを大切にする。	B	・保護者からの評価が厳しい結果になっているのは残念だ。対応の在り方として電話ではなく、直接家庭訪問をして理解を求めることが大切である。
	○教職員の資質向上	・「めざす学校を支える教師像」を目標として常に研鑽を重ねる。	・職員の接客や対応への保護者の満足度を9割以上に上げる。 ・教師への信頼している保護者を7割以上に上げる。 ・先生が生徒の気持ちがあわてくると回答する生徒が8割以上に上がる。	・勤務規律の保持に努める。 ・外部講師による研修会を実施する。 ・校内研修会を充実させる。 ・講演会や研究発表会等へ主体的に参加する。 ・研修会等へ参加しやすい校内体制をつくる。	B	・職員の接客や対応については保護者の満足度が、9割を超えたが、教師への信頼については、保護者76.6%、生徒87.4%で次年度への課題である。生徒指導面において十分に保護者の信頼を得ていない部分があるので、予防的な指導と問題発生時の対応について強化を図っていく必要がある。	・来校者や保護者に対しては、丁寧な対応心がける。言葉遣いやスリッパの準備等、気配り忘れのない接客態度で不快な思いをさせない配慮を行う。また、生徒に範を示す意味でも、率先して挨拶を実践する教師集団への変容を図る。 ・保護者からの信頼を得るためには、お互いに顔を突き合わせて話し合える場を意図的に作り出す工夫をする。		・先生と保護者の意思疎通を少しでも高めるよう日頃から保護者との連携を取ることが必要なのではないだろうか。
	○危機管理体制の整備	・危機に際してすぐに機能する「危機管理マニュアル」の定着。 ・危機に際して、敏感で的確な行動ができる体制整備。	・学校で起こる危機に関して未然防止に努めている教職員が9割を超える。 ・危機に直面した際の的確な対応ができると思える割合が、職員8割、生徒7割を超える。	・マニュアルについて理解・徹底を図る。 ・関係機関との連携をとるとともに、各種訓練を実施し、体験的な理解を図る。 ・多くの情報を発信し、危機意識を高める。	B	・職員の危機管理対応の意識は高いが、「的確な対応の仕方について理解している」は、88.0%で次年度に向けての課題である。 ・生徒については、危機対応に関する情報を多岐にわたって伝達したので、少ずつ危機意識の高まり出てきた。	・「危機管理マニュアル」のさらなる理解と徹底を図り、的確な対応の仕方については研修会を計画的に実施しその中で力量を高めていきたい。 ・体験的に危機管理を考慮する学習機会を設定することで意識を高めていきたい。保護者・地域の方々にも学校の実践を周知する方法を工夫していきたい。		・自転車通学生のマナーもよくなっている。しかし、登下校時の交通安全指導については、危ない箇所もあるので学校で十分に指導を行って欲しい。
○掃除やあいさつの充実	・目指す学校像、「明るく元気な学校」「美しい学校」の実現 ・無言掃除指導の徹底 ・生徒、職員お互いに元気のよいあいさつを交わす	・無言掃除をきちんとできていると答える生徒が9割を超える。 ・地域で元気なあいさつができているという生徒が9割を超える。	・生徒会やPTAとの連携を中心とした挨拶運動の充実と教職員の指導体制を確立する。 ・教職員、保護者ともに挨拶を交わしあうよう呼びかける。	A	・掃除や挨拶についての生徒アンケートでは9割を超え、目標を達成することができた。掃除への取組も学校全体として向上している。掃除や挨拶は社会人としても必要な基本的生活習慣として身につかせるべきことで、今後とも粘り強指導をしていきたい。	・生徒指導の一助となる無言掃除の定着を図ることで、生徒の意識改革を推進していきたい。 ・生徒によるあいさつ運動やPTAによるあいさつ運動を通して、豊かな心を育んでいきたい。	A	・生徒のあいさつについては、地域でもよくやっていると思う。前年度と比較すると大変ななりました。掃除の態度も参観をしてみても、よくできていると感じた。	

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**  
 ・今年度は、前年度生徒指導上での問題行動対応に苦慮をした反省を踏まえ、年度当初より生徒指導の組織的な対応の在り方について周知し、職員一丸となって日々の教育実践に取り組んだ。特に、集会時の姿勢・態度、大きな声での返事や挨拶のできる集団づくり、無言清掃の定着に力を注ぎ指導を行った。また、活用方向上推進事業研究の2年目として全職員で、授業づくり、学びの集団づくり、家庭連携に取り組んだ結果、一定の成果を得ることができた。学習指導と生徒指導の充実を推進することで、生徒が落ち着いた学校生活を送れる教育環境の醸成を図ることができた。  
 ・次年度は、生徒指導と学習指導を両輪として捉え、全職員で共通理解のもと今年度の取組を継続しながら組織体としてさらなる強化を図ってきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目